



慶長八年 攻年軍記

大坂の石、新井早馬之京へ

入江石近子力之忠心

軍中綱云秀信公和之信

分由公報送意欲之れ

進軍中へ信公へ西國之軍

日改早馬へ本口石の信

初日改早馬へ本口石の信









討も、刻来は侍中法中補を討たてし  
洗令一に、勇平、秋野、小寺、久、実、多  
海河の法と一同、秋野を討つ。二因、  
是任、高、信、と、出、家、門、と、一、王、氏、忠、臣、長、義、を、  
討、逐、撲、し、一、に、組、と、結、ぶ、事、に、な、て、  
事、也、

軍評從約に定る事

八月廿二日、尾別、遠次、と、あ、つ、て、  
東、軍、警、軍、と、  
是、の、評、從、を、り、  
院、上、下、一、百、  
夜、軍、河、門、  
也、

下、と、  
評、考、た、ら、  
と、  
後、に、  
夜、半、中、  
納、言、考、  
信、公、  
本、送、  
た、  
海、の、  
統、  
百、  
と、  
越、  
前、  
亦、  
之、  
外、  
家、  
老、  
中、  
結、  
解、  
の、  
時、  
集、  
て、  
合、  
裁、  
し、  
と、  
度、  
を、  
一、  
面、  
と、  
物、  
に、  
割、  
并、  
の、  
後、  
急、  
を、  
考、  
多、  
の、  
評、  
考、

城取留待口

茲、  
下、  
之、  
軍、  
兵、  
を、  
討、

前、  
向、  
中、  
の、  
法、  
門、  
三、  
十、  
人、  
六、  
十、  
二、  
百、  
石、

竹、  
市、  
忠、  
た、  
法、  
門、  
貳、  
十、  
人、  
又、  
十、  
石、

希、  
友、  
伴、  
法、  
門、  
十、  
二、  
百、  
人、  
三、  
十、  
石、

志摩津家八

八百人

千石

前田後石海門

千人

千石

梶川鉢所

又百人

八百石

前田半丁次

又百人

八百石

城西七曲口物口

九千三百人  
高千早守百石

本邊江島作

又百人

七百石

同久長年儀式

又百人

七百石

服浪部平

又百人

八百石

秋田又良次

又百人

八百石

新田常月

又百人

八百石

伊豆百石人物

又百人

八百石

城西百曲物口

九千三百人  
高千早守百石

百石越前守

又百人

七百石

百石重之曲

又百人

八百石

服浪重九海門

又百人

七百石

津田茂右海門

又百人

七百石

大西院

惣持目

梳川之水

三子人

七子石

瑞岡之石

又百人

千貳百石

番庄之石

又百人

八百石

坂井之石

又百人

八百石

八幡之石

此石計千八百石  
約計之有八百石

八百石

和國孫右丈

貳子人

六子石

岩倉大膳

又子人

九子石

大里角田

貳子人

又子石

大里角田

貳子人

三子石

木田浦之石

子人

貳子石

伴道長八

子人

貳子石

大野善八

子人

貳子石

大野酒之丞

又百人

子石

城西之石

此石計千八百石  
約計之有八百石

津田友三良

三子人

八子石

加茂軍之丞

三子人

貳子石

是立中斗

子人

子石

生助平三所

又百人

八百石

塚瑞茂三清

又百人

八百石

城水西之陽子持口

以子人  
約於三月廿五日

竹市居三清

三子人

六子石

瀧川平六

子人

千二百石

比條一角

子人

千二百石

佐友弥三良

子人

千石

中瑞傳右清

又百人

八百石

布川治良三清

又百人

八百石

桑海持之志

又百人

八百石

瀧川平三

又百人

八百石

成比下之水子持口

以子人  
約於三月廿五日

武友由良

三子人

又子石

入白入近

以子人

三子石

伴友平九良

以子人

以子石

高橋一徳

千人

貳千石

太田康之助

八百人

千二百石

入江九平

千人

八百石

武友富平

千人

八百石

横井玄右衛門

千人

千二百石

平田市左衛門

八百人

八百石

伴定丹平

八百人

八百石

城代美上丸物口

五百人  
千二百石

伏見少治次

三百人

元來為儀云此能取石  
取上之知城上如城本

本道伴誠

貳千人

三千石

百々神理

貳千人

貳千石

坪井七郎左衛門

千人

千二百石

後友三右衛門

八百人

九百石

山田久左衛門

八百人

八百石

三和五治所

八百人

八百石

振田次右衛門

八百人

六百石

小野佐久

二百人

二百人

以之

正之位

中納言信秀

本丸御殿

秀信公御金男  
後日使下

織田信長御殿

高橋左衛門  
生駒守康  
後日使下  
今右守康  
和合守康

三百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人

和合守康  
和合守康  
和合守康

秀信公御殿  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人

川越出陣之事

御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人

去程八月廿五日  
池田之左衛門  
越後守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人  
御殿守百七十人

是より文由取書氏一折笠也也未雅承以

松平在道 書に相定 東也誓之云廣の如押あり

彼年中納言考信云 早約の如物言三可或子解書

引率云て川子村へ端摩寺言とるむ物して下知と

とせられたるは及也江市 と有知 城守也 本送 及是の任百

細希守 紹永堂在處の同初平 前由半は也の無友 信守也

竹市 吾も河同忍在處の 前田 権をの 并に 三成 加 権力

河原左と云ふ不 新加 細村 天野 の如 相約を云れ

付之百々 賊承中下知とる 東國と云はる 元來 馬と云く

違者 有らる 河原 左と云ふ 河原 左と云ふ 河原 左と云ふ

子人 長持 有る 人云く 是れ 有る 長持 有る 長持 有る

大角 有る 子人 有る 今 河原 左と云ふ 河原 左と云ふ

川 宗入 有る 有る 有る 見し 河原 左と云ふ 河原 左と云ふ

宗 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る

也 河原 左と云ふ 河原 左と云ふ 河原 左と云ふ 河原 左と云ふ

河原 左と云ふ 河原 左と云ふ 河原 左と云ふ 河原 左と云ふ



かゝる人ぞかりし年改年方か物事つげり  
とて茂方田種古後(前田)年た道(か)に  
捨筋共相戦ひ切平(指)平(一)騎打掃負  
生に(も)れたる軍(長)之(一)戦(の)あ(る)事(は)  
ふせ(ま)し(あ)ら(な)く(首)と(さ)し(り)の(切)平(は)又(も)  
之(一)陣(升)七(命)を(北)東(國)勢(之)首(神)  
討(し)入(城)種(平)又(と)り(下)討(た)し(り)申(綱)と  
敵(物)は(下)陣(見)来(入)給(り)少(少)陣(升)集(る)

を(し)指(平)又(首)種(取)意(被)落(は)ら(ん)と(藤)  
か(下)り(て)意(成)る(相)切(平)馬(と)あ(ら)打(京)之  
い(ま)ち(り)の(向)の(意)又(或)者(自)強(和)を(う)是(を)あ  
ら(は)し(め)り(と)一(方)掃(負)は(ら)ん(と)言(ふ)  
飯(沼)切(平)も(あ)り(少)乃(及)れ(ん)こ(も)あ(る)こ(と)  
は(け)り(強)く(い)り(け)り(し)飯(沼)の(難)然(も)あ(る)の  
池(田)備(中)守(り)と(り)ち(り)申(合)せ(給)ふ(る)  
そ(と)見(事)成(備)也(揚)負(は)ら(ん)と(あ)ら(る)



町に居る婦人の妻の命を今決し備はる  
川市一子に婦人一人を先とれども来道  
少てから難攻場拾遺集先人の命を度とせに  
攻めたる也才世一の相成さく西の是なる  
川の岸に見しとれと鐵前中口候屋の度言  
之或る事なりと云ふ事いふと云ふに  
胎病と云ふ人ともいふ此軍一と云ふ  
爰に婦人今日面くもいふと云ふ事と云ふ  
爰に我の婦人あり候はらうと云ふ事  
難攻と云ふに極端と云ふ事と云ふに胎病  
石成再婚と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
傍軍と見え候と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
主君は行ると云ふ事と云ふ事と云ふ事  
家成ふと云ふ事と云ふ事と云ふ事  
集はる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
軍等と云ふ事と云ふ事と云ふ事

家とくとい色に成て人等の言ふに河内  
前守前とていふを又軍務の事とらへり  
果ふ計や東國好し道と討てこれと出  
お我ふ成るは柳如津田新室押決弁を  
平井洋次とて同共者也成友法也とい  
孫子とて中生駒集人安井將監堀田  
相監とて田中月八とて高志とて福永市方  
東に物解田林田成とて小坂物とて長堀田と  
安井三右衛門吉村源八成とていふ道信とていふ

織前守大軍務といはれせりこれ成り  
保り也いふ道信とていふ成り今日成り  
お我ふ成りといふ首成りといふ成り  
軍務とて保りといふ成りといふ成り  
いふとて成りといふ成りといふ成り

津田友三市和国孫とていふ成り

一爰に他田三とていふ成り



卯のた焼の人獲前此母家者凡約百歳  
反小者の百といふ能先試んくわに  
從者其ののありてふん切ら  
らるる小を思ふらるる者  
上加納村前  
流川平六中流傳石海  
其年夜半に九軍  
兵火として足將  
たてて入る  
ふせく  
目とあふ傾傾の黄成せ  
及ぶ  
東國野成  
新田の橋川に  
幸臨彩如納  
の若孫

夜討の日に  
夜討の日に  
川下軍勢の事  
流竹鼻  
後六月廿三日  
以下起此流  
之福徳  
今又正引  
田中治久  
大捕長  
加友  
た  
し  
由  
取  
的  
京  
梅  
枝  
程  
亮  
ら  
知  
及  
堂  
外  
海  
軍  
高尾生の  
的  
借  
渡  
中  
正  
後  
中  
以  
志  
磨  
し  
中  
廣  
子  
時  
次  
貞  
長  
の  
守  
之  
能  
忠  
由  
中  
將  
守  
長  
正  
徳  
并  
兵  
勢  
少  
補  
ら  
由  
中  
將  
守  
忠  
三  
因  
兵  
廣  
中  
忠

改長正越平守不汝方一押前川一  
相高狼煙の事高と福一平建鉄砲音  
最方少くも福高の軍一城計ししと  
志と心入る気と好川卷る所行果て  
城に攻浦を長たし一井毛利一柳野一  
年か戦方龍川彼一節前由平東陣一  
此の川向き右の岸に鉄砲を打ち  
おし折る事し新砂代馬の事なり

東國惣川下の折るに賢野井迄一  
相浦毛利龍川前田茂一室毛北行鼻  
事の中九相浦二九の毛利龍川前田指  
國路を展如押家と居別の中折と遠る  
事なり城を自復式計死して事せし  
事なり城火線掛相浦目害せし  
散る事なり七人自殺せし事後  
相浦國路近道恐る事放火と事





筑城の事少く傷はら。物堅の故  
なほと申利道はたふ心内ふりくもた  
日ト申し居

新出合戦之事

一政年城は八町南に成山首に新設  
代五之指とらり申す申す  
田治少浦に安柏石を築き同河に流  
たると由取田十一年又新合戦城を築き

指筑次八月廿三日卯刻揚籠山の  
麓東國勢七をて人数のくを定  
りて富永た京又又宛克軍兵に  
白でに指引を申同西の山に  
妻と城中に者り兼ら部  
信と越所木湯に鉄砲を  
戦ひの事より鉄砲を  
つとららるる

あつたにんむしと小指と云ひ  
あつたにんむしと小指と云ひ  
あつたにんむしと小指と云ひ  
あつたにんむしと小指と云ひ  
あつたにんむしと小指と云ひ  
あつたにんむしと小指と云ひ  
あつたにんむしと小指と云ひ  
あつたにんむしと小指と云ひ  
あつたにんむしと小指と云ひ  
あつたにんむしと小指と云ひ

細く高朋せんとも思ふ方  
たのむ所 敵へ大将柏原  
軍令 兼 藤原 清 合 大 将  
足らぬのせし 若く切結ふ  
備もたぬ 枚浦 切 込  
なむ 名 京 行 城 内 賊  
式 々 討 討 又 討 討 討 討  
意 天 々 討 討 討 討 討

改阜後法軍轄之車

附 河渡川 淺瀬 車馬車

改阜後法軍をこゝに建田中後守

友堂佐坂守田中兵助又言川北前守

木成儀同道とて川後東に陣成張時

石田治部少輔治津兵庫頭小田治津

守備前中納言改阜の法信とて救

美濃守川平とて河渡の守と押来て

川崎とて西尾松より東西勢出約

備前守寺次と藤守兼正相預

村越守原守とては守と軍と

来りぬる河渡川 水渡切の河

取上田中 寺助とて是村松

守とて大川 淺瀬の守とて

守とて人小守とては淺瀬の守と

守とて守とては 野毛守と

先、ゆき山と後、つとま里川禪院  
を入相傳とせり。後、川取と相傳の  
末、甲申、ちよとて、あつて、く、陳取、川  
押、渡、つ、方、押、也、武、指、所、川、と、西、院  
抄、玉、人、と、と、進、た、ん、の、勢、馬、は、は、は、  
ま、の、め、の、ま、ま、又、見、ん、山、の、山、西  
嶋、清、庵、を、ら、ぬ、て、り、ゆ、を、た、る、石、田、の、  
軍、台、清、練、の、ひ、さ、り、川、少、北、の、名、の、り、  
乃、と、東、國、勢、力、を、の、り、一、は、ま、い、ら、酒、の、  
川、の、り、

波年、落城、の、事

八月二十、日、未、明、の、東、玉、勢、地、面、三、瓦  
場、同、傳、中、年、有、鳥、方、為、頭、山、の、り  
我、る、守、場、流、節、の、一、柳、監、切、集、極  
修、理、丈、丈、亦、百、曲、水、日、一、句、の、り、

右の人指同伯者守と念馳申す  
甲斐守は是を仙居の山原に馬を  
引て曲表の向をり申す大下は  
了跡に幣少く押寄に波申中綱云  
秀任公成。而後、物利の七言を  
思ふ中城備前一合戦して是を  
不計死せんと都府本道百と始  
津田船泥を介乃其是一同せり物

右馬より右人曰昔馬の及おまへ若念大

儀伴是平居の之指一徳入に在道難云  
或拾得人の此指新赤結金此切  
下をその中銀の親首中。金のあり  
下を指す中押さるるひく馬物を  
法地川付寸少くを一日控可押張  
弦のひる先押来敵と侍りあり  
所念申すは村秀の切元元ち平

松館人相うりや一七南の<sup>ト</sup>道末使<sup>ル</sup>  
依小柄御の八造り相早とさる<sup>レ</sup>後乃  
母衣掛悪田の約る息人衣<sup>レ</sup>赤白の  
衣衣と御<sup>ル</sup>あ<sup>レ</sup>親<sup>ル</sup>子<sup>レ</sup>又白<sup>レ</sup>袴<sup>レ</sup>備<sup>テ</sup>  
あ<sup>レ</sup>て来<sup>ル</sup>軍<sup>ル</sup>靴<sup>カ</sup>侍<sup>ル</sup>衣<sup>キ</sup>多<sup>ク</sup>し<sup>テ</sup>山<sup>ノ</sup>玉<sup>ノ</sup>物<sup>ノ</sup>  
ち<sup>レ</sup>相<sup>レ</sup>履<sup>ル</sup>元<sup>ノ</sup>袴<sup>カ</sup>之<sup>レ</sup>相<sup>レ</sup>方<sup>レ</sup>袴<sup>カ</sup>小<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>て  
履<sup>ル</sup>の<sup>レ</sup>け<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>南<sup>ノ</sup>履<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>履<sup>カ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>  
木造が持口とす<sup>ル</sup>三<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>見<sup>ル</sup>の<sup>レ</sup>母<sup>ノ</sup>衣

衣者或袴<sup>カ</sup>大<sup>カ</sup>相<sup>ル</sup>と<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>袴<sup>カ</sup>皆<sup>ク</sup>  
侍<sup>ル</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>と<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>  
て<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>と<sup>レ</sup>木造<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>  
衣<sup>カ</sup>と<sup>レ</sup>計<sup>ル</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>百<sup>ノ</sup>騎<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>  
衣<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>親<sup>ル</sup>子<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>  
御<sup>ル</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>大<sup>カ</sup>軍<sup>カ</sup>靴<sup>カ</sup>と<sup>レ</sup>先<sup>ノ</sup>  
皆<sup>ク</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>  
衣<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>の<sup>レ</sup>衣<sup>カ</sup>



福志と見えらるる人ふれんとも責我の福志  
先の月伯存身まは人進んくお我の城の  
共は申方々へ白雲は續く人續筆も弱  
お棄て白氣を盛る人武者は終り家名  
成りしとてと法入念人ぐ踏さぬお  
我の七言家入幸由治師今能き故と生  
名乗る我ひとて吉田終付れん人  
坂田源入大男の大口若輩言討せし人の  
追討る我の是も終討らるや

あゝ友々へ吉田切はを討せし人  
のうきと白氣の侍に接候難なく  
津田の巻く友々へもせぬ用  
八方切る我ひもあてとも是にあ  
こゝろにふくともては川流は付田  
るる人の強者の心はあはるるを名原  
なげらじともはなしたるひのん

七八あるはひもてゆれし見まはるのさへ  
りりあひの具に折田すも又晴夫敵とか  
はくくうぶらふ市生約平とて名無て  
是と敵を約神也 柳田まのふとてさ  
も平とてしつら合約とて行義ひと生約  
休討九平とて又城兵あてかた軍人  
進給く必人成敵の中存たの休存  
大日 equal 又白国が平とて小日めと切給ふ

五折給ふ小首鶴と合とてしつら加  
下人といふ城をけしめ敵を勝たふまうと  
いふあひまかひの身をとりんて折る軍  
之悪給ふ再發獲くも敵をのこつて  
とて大日男のま折給ふ獲とて二領ま  
首をも大石なるまははくし給く  
又六寸をりしとあれてとん平ら折か  
給うたけ給うま入しつら平ら折か

河津川河口より上りて居候にたて  
あつたての御座り候と申す候  
小中政信様は此の御座り候と申す候  
首の切手より申す候と申す候  
大と申す候と申す候と申す候  
又福馬様へ大橋武方より御座り申す候  
別入の殿と申す候と申す候  
同様に又此御座り候と申す候

ついで年一宮瀬川平上り小東一宮  
往々忠より外御座り候と申す候  
是田本田大御座り候と申す候  
五帖より一帖切手より御座り候  
辰將之御座り候と申す候  
川より福馬様御座り候と申す候  
人に御座り候と申す候と申す候  
小者御座り候と申す候と申す候



八里山のつゆをわし 粒をば 中切  
えまきり口り せんく 川流せ  
せらも 是れを 飯沼 塩 相持 与 行  
飯沼 流のつて 飲や 給 人 と 外 中 流 あり  
引く 其 内 水 くの 池 田 あり 有ら 場  
尾柳 伊丹 田 中 女 子 九 近 付 及 丹  
川 通 幸 也 也 飯 二 方 ころ なる 及 丹  
穀 本 を と 糸 大 穀 流 螺 の 貝 吹 ち ころ かん  
と せん せん ころ 川 流 せ とも 場 なる い  
素 の ころ 吉 村 又 ち ころ 九 新 指 ち 入 ころ  
内 ち ころ 見 ころ 飲 拾 人 大 流 付 画 ち  
お 貫 相 持 ころ 吉 村 なる 幸 也 ち ころ 相 持  
慈 田 長 流 師 氏 方 流 流 ころ とも 組  
尾 山 大 近 付 有 流 流 ころ 板 七 曲 ころ  
本 流 流 ち ころ 水 ころ 方 とも 流 流 ころ  
流 ころ 幸 也 ころ 本 流 流 流 ころ 流 流 ころ



ほのつゝ相我入城兵白靴入る老成も  
かゝるもみと見えよる白靴の池田之長海  
輝政の岩もみと見えよる白靴の池田之長海  
浦もみと見えよる白靴の池田之長海  
仍く中へ老成を授けしころ一我所  
峯の首の積成老成の付下神音なり  
きやうのつゝあつちのつゝあつちのつゝあつち  
月あつちのつゝあつちのつゝあつち

をいふ者とも聲にいらる故に命はあつち  
あつちのつゝあつちのつゝあつちのつゝあつち  
たつちのつゝあつちのつゝあつちのつゝあつち  
海へ命をともませる人らあつちのつゝあつち  
まゝの浦の道のある人らあつちのつゝあつち  
あつちのつゝあつちのつゝあつちのつゝあつち  
あつちのつゝあつちのつゝあつちのつゝあつち  
あつちのつゝあつちのつゝあつちのつゝあつち  
あつちのつゝあつちのつゝあつちのつゝあつち



志何年一宮所法一と切夜成世の  
中隊の作は國大軍中とあ集りて切夜  
成の事一上人法路系の衆は成の事一  
の二武生我場中羅成軍の事一  
免のらるるの事一と衆人信の事一  
田の法が通今中夜今かむにあ  
今が孔法侍る一今とあまの事一  
後系成の事一と中綱之衆信の事一  
川城の城の事一と中綱之衆信の事一  
想作する成の事一と衆人信の事一  
免のらるるの事一と衆人信の事一  
の事一と衆人信の事一  
武士の衆の事一と衆人信の事一  
以て衆人信の事一と衆人信の事一  
事一と衆人信の事一と衆人信の事一  
武中の一押し相築城一と衆人信の事一





毎品を辨別し市を以て  
戴百石程を重なる病死す其後久し業人  
付し福清在道り度し由り於て千石を重  
物に重なるに及ぶ程に形跡を以て百石  
是より重なるに或る由り申す事なくは  
久し業人尾羽おのりし由り申す事なくは  
わしと後日言はし使持方為りし由り申す事なくは  
其後右取らしし由り申す事なくは

當りし由り申す事なくは  
取らし由り申す事なくは  
出候に高野山に申す事なくは  
石の池田に在りし由り申す事なくは  
心石の池田に在りし由り申す事なくは  
本道家信具に在りし由り申す事なくは  
或道に在りし由り申す事なくは  
河波守殿に在りし由り申す事なくは

与人池田之左衛門尉信長知事二百石高  
栢田治右衛門兵部右卫门尉信長知事  
繁茂軍之忠臣死子具武人有是人为者  
佐治等敬信長之志也又其人掌人仕家  
市右兵部右卫门尉信長知事高繁茂知事  
戶兵部右卫门尉信長知事月日送信長入  
左近侍右兵部右卫门尉信長知事高繁茂知事  
軍之忠臣死子具武人有是人为者  
石与町奉行入軍之忠臣死子具武人有是人为者  
川方知事知事

從一位右大臣兼大政大臣

織田之德之由信長公

信長公後拾代津田氏

從二位左中將

秋田城之助信忠公

天正十歲壬午六月二日為准位日

向守光親秀為親冷陽本銀寺正の

四拾九歲宋野大德寺并惣見

院教奉岩天禪定門由土田氏

傳曰土田氏江加藤頭也

天正十歲壬午六月二日為准位日

守光秀親二条館兵貳拾六

歲并大德院教仙岩天禪定門

正三位

信忠公御子

收阜中綱言秀信公

天正十歲壬午秋福澤郡收阜

城彦長二年道子庚

高野山二

從四位下

秀信公御子

元備門尉秀則

寬永二歲巳十月廿七日奉

收阜前丁弁之白之布度山城守道復之

信長公御入史公收阜十

金荒山

一石山

破鏡山

收阜同極長光寺如來一尊介才佛是也

信列 長光寺如來收阜河川以是之史將軍

一書古公河代小車約大佛以川有秀古公

此地界後信仰 山伯佛 有古車約大日山

善江寺親寺山川 以是之今收阜今泉也 小

慈村地有菩薩河川 以是之收阜也慈大つ

收阜同極山是入史信之代 業仁天王河子

信石成磯錦入神之現 具心峯大捨現

分文全大明神 未社拾八日新

以之

慶長五年 改信十軍記終

愛知県文化会館

Handwritten text on the inner flap, including the characters '長年' and '改信'.

Vertical handwritten text, possibly a signature or date, partially obscured by ink smudges.

W2153  
41  
506404

506404